

進んでる？八代市のデジタル化

近年、IT技術の発展やパソコン・スマートフォンなどの普及、そして新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化の影響で、社会全体でデジタル化に注目が集まっています。令和3年には「デジタル庁」が発足するなど、国を挙げてデジタル化を推進しています。

本市では、デジタル技術を活用することで地域課題を解決し、持続的に発展するまち“スマートシティやつしろ”を目指します。これにより、市民一人ひとりが健康で幸せに暮らせる社会「ウェルビーイングライフ」を実現します。



「デジタル市役所」のサービス

本市では、スマートフォンやマイナンバーカードなどを活用してさまざまな手続きができる「デジタル市役所」の構築に向けた取組を進めています。

インターネットでできる施設の予約や、支払いの手続きなどを案内するポータルサイト「ねっとで窓口」を市ホームページに開設しています。

①ねっとで申請

住民票などの証明書をインターネット上で申請し、郵便で受け取ることができます。7月31日(日)までは郵送料(通常郵送料84円)が無料です。ただし手数料は別途必要です。

利用可能な証明書

住民票、印鑑証明書、戸籍謄・抄本(除籍・改製原戸籍除く)、所得課税証明書、資産証明書、納税証明書

申請に必要なもの

- ・スマートフォン(マイナンバー読み取り)
- ※利用できない機種もあります
- ・マイナンバーカード
- ・署名用電子証明書暗証番号(6桁以上)
- ・クレジットカード



申請手続き



②証明書コンビニ交付

マイナンバーカードがあると、全国のコンビニエンスストア各店舗に設置されているマルチコピー機を利用して、住民票などの証明書を取得することができます。

〈取得できる証明書〉

- ・住民票・住民票記載事項証明書・印鑑証明書・所得課税証明書(最新年度のみ)



マイナンバーカード

〈サービスが利用できる店舗〉

セブンイレブン・ローソン・ファミリーマート・イオン・マックスバリュ九州・ミニストップなど

〈時間〉

午前6時30分～午後11時まで
※店舗によって営業時間が異なります

③ねっとで施設予約

パソコンやスマートフォンで市役所市民交流エリアの多目的ホールや会議室などの空き状況の確認や予約ができます。

また、各コミュニティセンター、学校体育施設など、市有施設の空き状況の閲覧ができます。
今後、インターネット上で予約できる施設を増やしていきます。



スマホ または HP

施設	空き状況閲覧	予約	支払い
市役所市民交流エリア(ホール・会議室)	○	○	○
各コミュニティセンター	○		
学校体育施設	○		
八代トヨオカ地建アリーナ等体育施設	○	○	
桜十字ホールやつしろ	○	○	
鏡文化センター	○		
サンライフ八代	○		
さかもと八竜天文台	○	○	

④証明書発行窓口のキャッシュレス

証明書発行の手数料をクレジットカードや電子マネーで支払うことができます。

〈利用できる場所〉

八代市役所 証明書発行窓口(1番窓口)
※各支所・出張所では対応していません。

⑤便利なアプリ

■防災アプリ

八代市の防災・行政情報などを受信できます。災害などの緊急時にはサイレン音を鳴らして危険をお知らせします。



スマホ



インフォカナル

■ゴミ分別アプリ

スマートフォンやタブレット端末から家庭のごみや資源物の処分方法や収集日などの情報が簡単に調べられます。



さんあ〜る

⑥AIチャットボット

〈対象の証明書〉
住民票・戸籍謄本・印鑑証明書・自動車臨時運行許可手数料など
※現金との併用はできず、一括払いのみです。また、窓口ではチャージできません。



窓口

市ホームページとLINEでAIチャットボットが利用できるようになりました。市ホームページ右下のアイコンをクリックするか、市公式LINEのトーク画面左下のアイコンをタップして、知りたい市の情報を質問すると、AIが適切な回答を判断して自動返信します。24時間利用できますので活用ください。



スマホ または HP



市公式LINE

個人により良いサービス



熊本県 デジタル戦略監
あきら
妹尾 曉氏

民間企業でシステム開発やICTコンサルティング、マーケティングなどに従事。平成28年にみらい株式会社を広島県広島市に設立。代表取締役CEO。その後、複数の自治体などでDX関連事業に従事し、令和4年4月から現職

デジタル化のメリット

今、デジタル化が急速に進んでいます。その理由の1つは、少子高齢化により生産人口が減少していく中で、少ない人数でこれまでと同じまたはそれ以上の成果を得るためです。

また、時間や場所を選ばずに作業できるため、働き方や生活が多様になること、個人のニーズに合ったサービスを提供することなどさまざまなメリットがあります。

熊本県でのデジタル化の取組

熊本県では、デジタル技術で社会を変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）で目指すべき熊本の将来像を描いた「グランドデザイン」をまとめました。デザインの中で、最終目標として「県民総幸福量の最大化」を位置づけています。県民の皆さんがDXにメリットを感じ、幸福を感じていただくような取組を進めていきたいと考えています。

八代市のデジタル化の取組

八代市では、マイナンバーカードを活用したオンライン証明書発行など、市民の皆さんに分かりやすいところからデジタル化を始めています。マイナンバーカードの普及が進むことで、行政のさまざまなサービスをデジタルで展開できるので、市民の皆さんにとってDXの効果を感じられるのではないかと思います。

今後のデジタル化について

DXの成功は個人がメリットを感じるかどうかです。個人単位での困りごとをより多く吸い上げて把握し、それを解決できるサービスを提供していくことが大切です。八代市は令和3年度に市民からデジタル化のアイデアを募集されました。今後も個人のニーズを上手く拾い上げ、他の地域のデジタル化を先導してほしいと思います。

スマートシティやつしろの実現へ

スマートシティとは、ICTなどの新技術を活用して都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、新たな価値を創造し続ける、持続可能な都市や地域のことを言います。スマートシティやつしろ」を実現させるために、本市の課題を明らかにし、デジタル技術を活用してどのような施策・手段を講じるのかをとりまとめ、本年2月に「八代市デジタル化推進基本計画」を策定しました。

本年度からこの計画に沿って具体的な施策に取り組んでまいります。取組をいくつか紹介します。まず、令和2年7月豪雨災害で被災した医療機関の無い坂本町で移動診療車を巡回させ、オンライン診療を行う「デジタル医療Maas事業」を進めます。そして、担い手確保や稼げる・魅力ある農業構築のため、主に若手・女性農業者向けのリビングラボ（意見交換会）な



八代市 政策審議監
むら かみ り いち
村上 理一

熊本市出身、H3郵政省（現総務省）入省、総務省事務次官秘書官、大臣官房広報室広報報道専門官、総合通信基盤局電気通信技術システム課課長補佐など歴任し、R3.9より現職。主に地方創生、スマートシティ、SDGsの推進を担当

どの開催やスマート農業技術の導入に向けた実証実験を行う「スマート農業プロジェクト」を実施します。市民の皆さんにとって身近な市役所の窓口にもデジタル技術を取り入れています。例えば、住民票や印鑑証明書などを、自宅からオンラインで申請いただくと、郵送でお届けできるようになりました。また窓口で手を触れなくても受付票を発券できる「非接触（空中）ディスプレイ」の設置や、証明書発行窓口で、手数料支払いのキャッシュレス化を行うなど、県内初のデジタル技術を取り入れ、デジタル市役所に向けた取組を進めています。

今後は、これらの取組を、多くの市民の皆さんに伝え、実感していただけるよう、広報・報道のさらなる充実・強化にも取り組んでいます。

八代市デジタル化推進基本計画を紹介します

令和4年2月に「八代市デジタル化推進基本計画（デジタルでつながる未来都市Move forward！八代）」を策定しました。

デジタル施策の推進に当たつての方向性や重点取組、個別施策などをまとめており、計画期間は令和4年度～令和7年度までの4年間です。

1. 防災

災害時における情報収集・提供体制の再構築と避難所運営の効率化

デジタル避難スイッチの導入

災害時に自発的な避難を促すために開発されたスマートフォン用アプリです。避難を始める水位を登録し、その水位を超えると避難を促す通知が届きます。

スマート避難所の導入

避難所に入室する際、QRコードなどを読み取り、住所氏名・健康状態など必要な避難者情報を登録することで、誰がいつ入室し、現在何人避難しているかなど、避難所の状況を瞬時に把握することができます。

2. 医療

デジタル技術を活用した医療サービスの提供

デジタル医療Maasの導入

令和2年7月豪雨災害によって2つの医療機関が被災し、無医地区状態となっている坂本町の医療提供体制の充実や、中山間地の医療資源の確保のため、導入するものです。遠隔診療できる移動車両で看護師が坂本町などを巡回するもので、地域住民は地域に居ながら、医師は病院に居ながら診療できます。



MONET Technologies提供

3. 市民サービス

オンライン申請の拡大、デジタル市役所の推進など

デジタル市役所の推進

マイナンバーカードを活用して、あらゆる行政手続きの完全オンライン化を進めます。

デジタル機器などの使い方支援

デジタル機器に慣れていない人へのサポート体制を充実させ、「誰一人取り残さないデジタル化」を目指します。



4. 農業

稼げる農業の構築と担い手確保に向けたスマート農業推進プロジェクトの実施

農業従事者の確保・育成や農産物の安定的な提供、生産技術の確立などの課題に対して、リビングラボ（意見交換会）などで意見を募集します。これを基に、先端技術を農業に活用する「スマート農業」の導入を踏まえた課題解決につながる取組を推進します。



5. 商工分野

- ① DX人材育成研修への参加を促進
- ② 買い物クーポン券のデジタル化など、地域通貨のDX促進
- ③ 商業活性化に向けデジタルを活用した地域の魅力発信

6. 観光分野

- ① デジタル技術を活用したサイクルツーリズムの推進（サイクルルートマップのデジタル化、レンタ（シェア）サイクルのネット予約など）
- ② AR・VR技術を用いた体験型観光サービスの構築

7. 教育分野

- ① 学力向上の推進（ICTの活用など）
- ② 不登校対策の充実（オンラインでの授業・行事参加など）
- ③ 情報活用能力の育成（プログラミング教育の実施など）

8. 交通分野

- ① 自家用有償旅客運送の導入（地域住民の移動手段を確保するため、市町村やNPO法人などによる自家用車を用いた運送サービスの提供）